


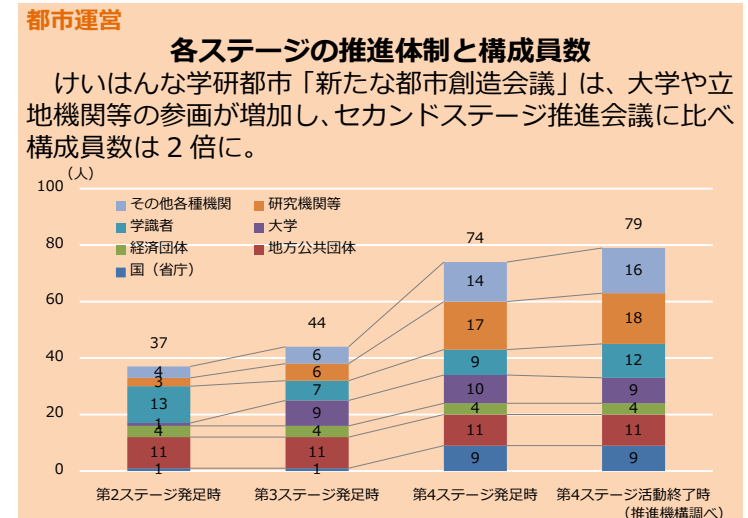
グローバルスタートアップ支援プログラム「KGAP+」

(Keihanna Global Acceleration Program Plus)

2019年度からATRが実施。国内外の連携機関を通してスタートアップが参加し、3か月間協業先を探索(累計参加数27か国233社、マッチング成立66%)。2025年度は第13・14期に16か国37社が参加。各期の短期特別プログラムを第13期分は大阪・関西万博とけいはんなで実施し第14期分は台湾で実施(計7か国9社参加)。また、けいはんな万博2025「グローバルスタートアップPoCチャレンジ」と「スタートアップフェス」に卒業企業含む4か国7社が参加。京都スマートシティエキスポ2025では、「KGAP+特別セッション」として、3か国の連携機関のエグゼクティブを迎えて、PoCフレンドリー都市のグローバル連携をテーマにパネルディスカッションを開催。



(ATR 提供)



けいはんなインジケーターマップ 2026



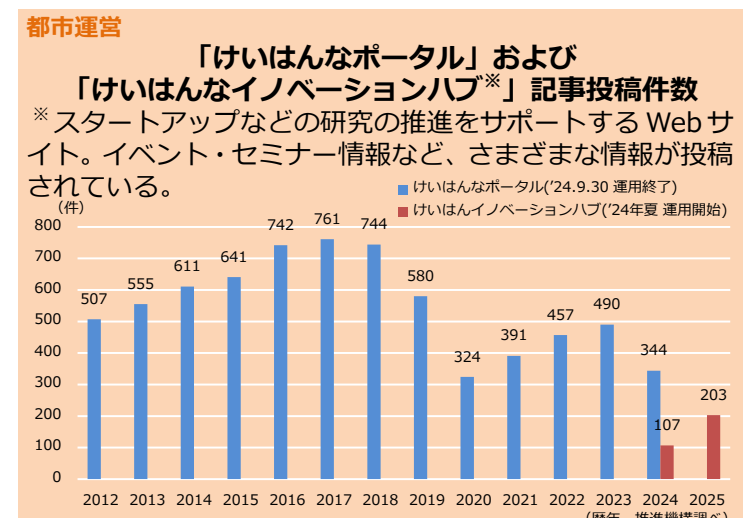
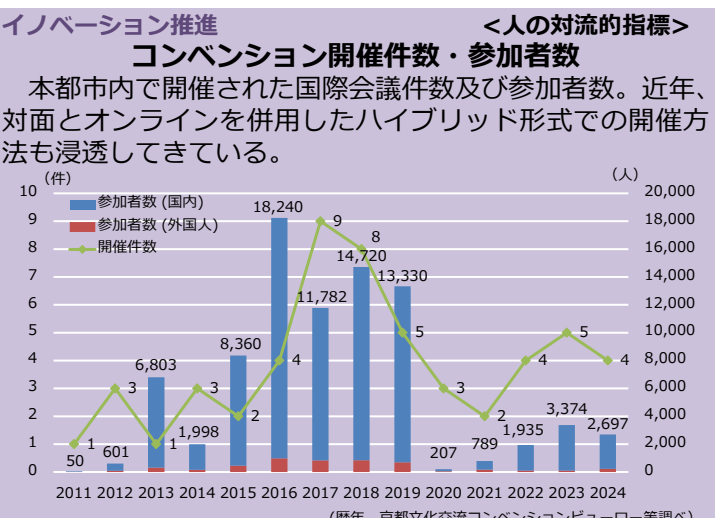
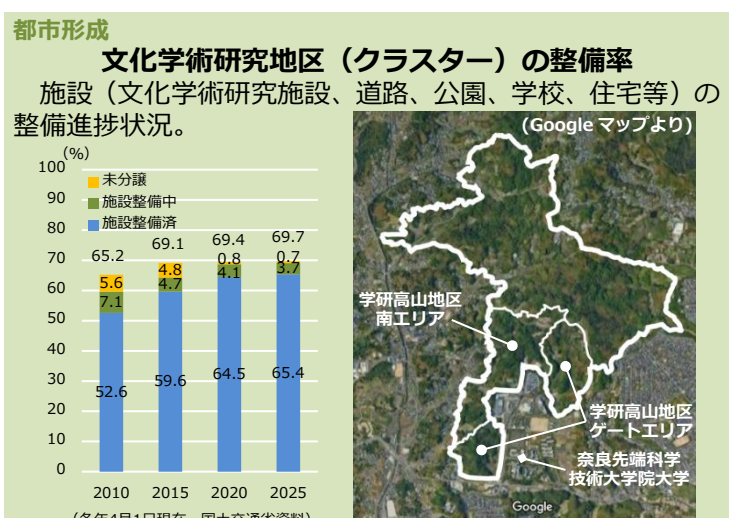
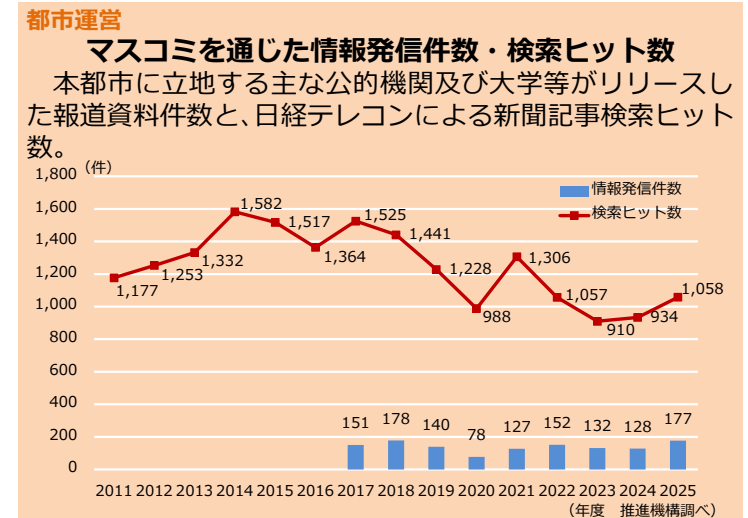
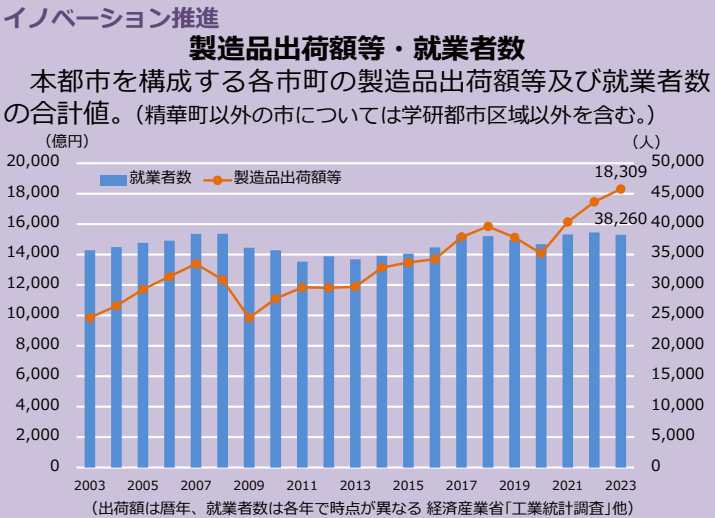
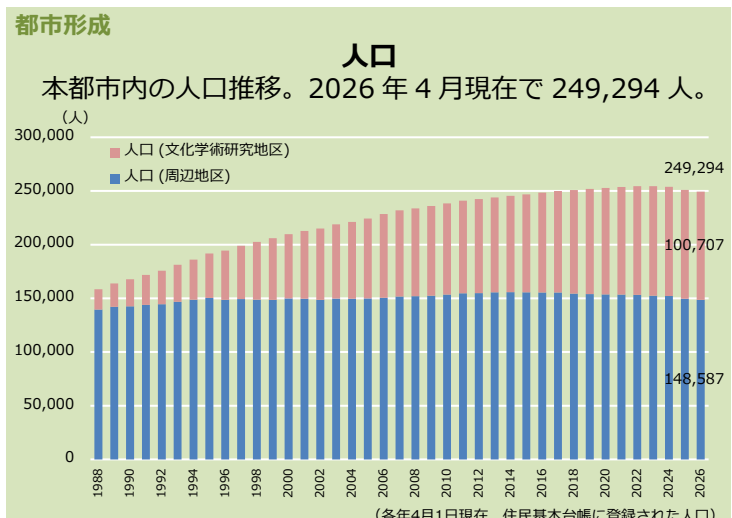
みるる

けいはんなインジケーターマップとは

「けいはんな学研都市」の多様なステークホルダーは、新たな都市の創造を理念とした様々な分野での取組の成果を共有し、国内外へアピールすることで、それぞれの事業活動の新たな展開に活かしていくとともに、都市全体の価値を高めてきました。

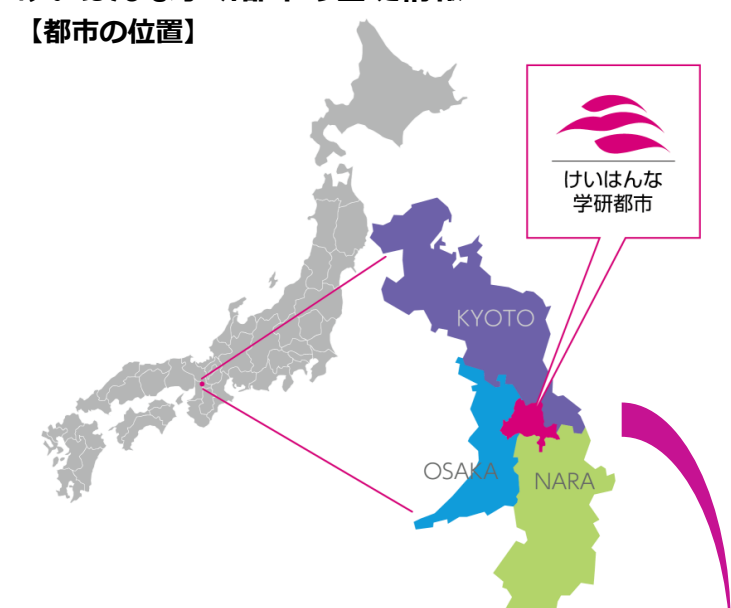
「けいはんなインジケーターマップ」は、そうした取組の成果を、全体として俯瞰的に評価する指標群です。

これまでの成果は、2026年度から10年間のビジョンと行動の指針を表す「第5期ステージプラン～ポスト万博シティけいはんな～」へと受け継がれます。



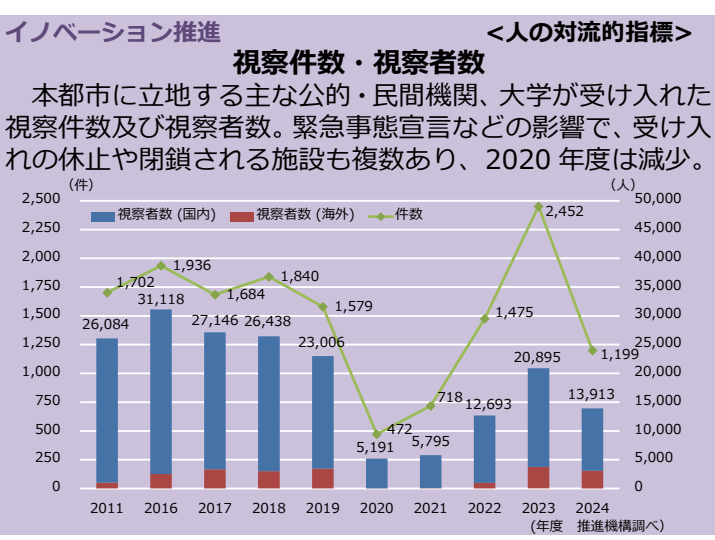
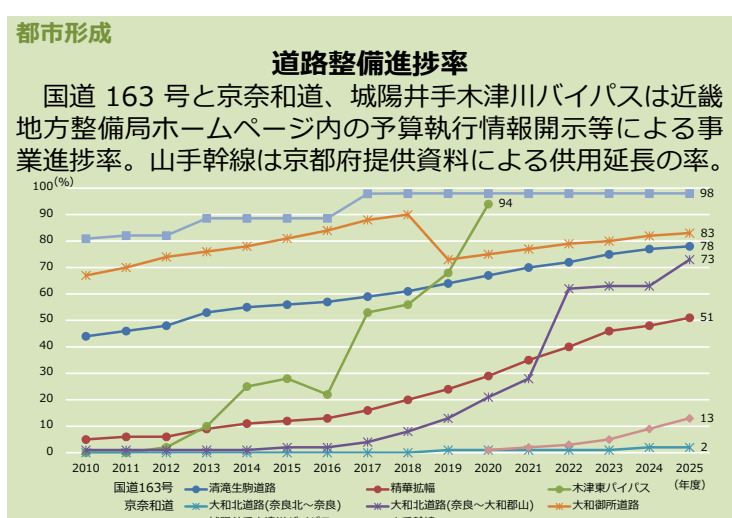
けいはんな学研都市の基礎情報

【都市の位置】




【各クラスターの整備状況】(2026.4 現在)

学研都市全域 15,000ha
内 文化学術研究地区 3,600ha (12 クラスター)



SDGs 関連指標

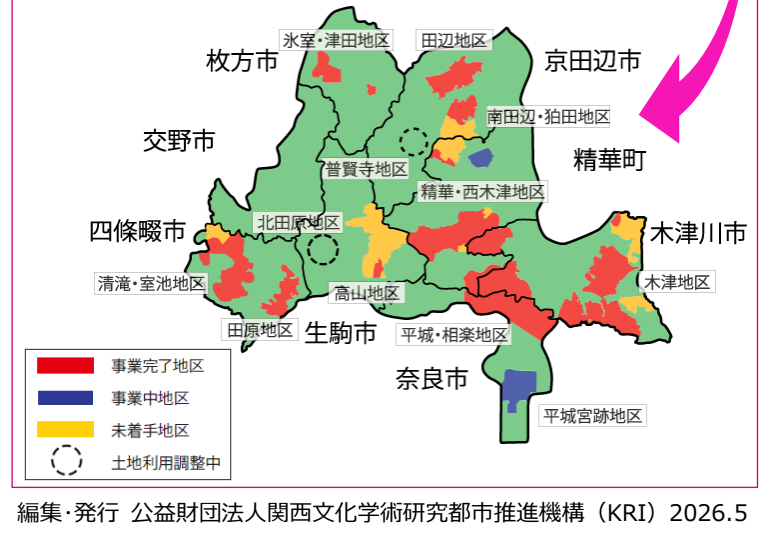
持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために示された我が国の具体的施策にかかる指標に準じた、本都市内における該当指標。



100万人当たりの研究者
本都市内では、'25.4.1 現在で1.38万人。
<SDGs ターゲット：9.5>

海外との科学技術協力協定
本都市では、'26.3 末現在で207件。
<SDGs ターゲット：17.6>

立地適正化計画
本都市8市町のうち、'26.3 末現在で5市町が作成済。
<SDGs ターゲット：11.3. 11.a>



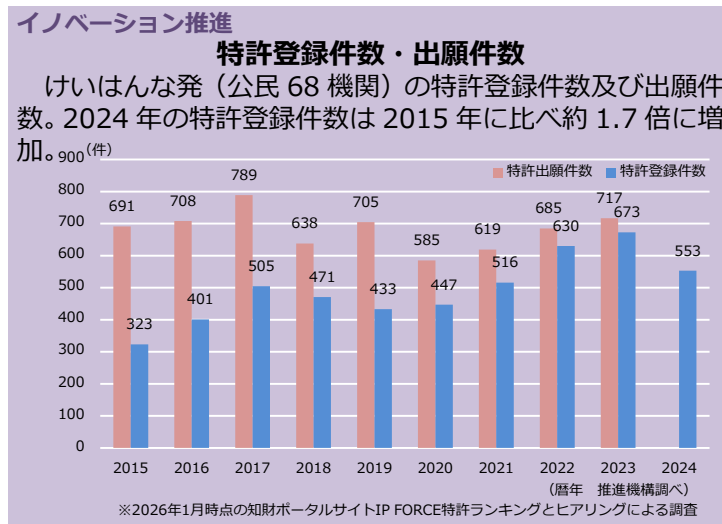
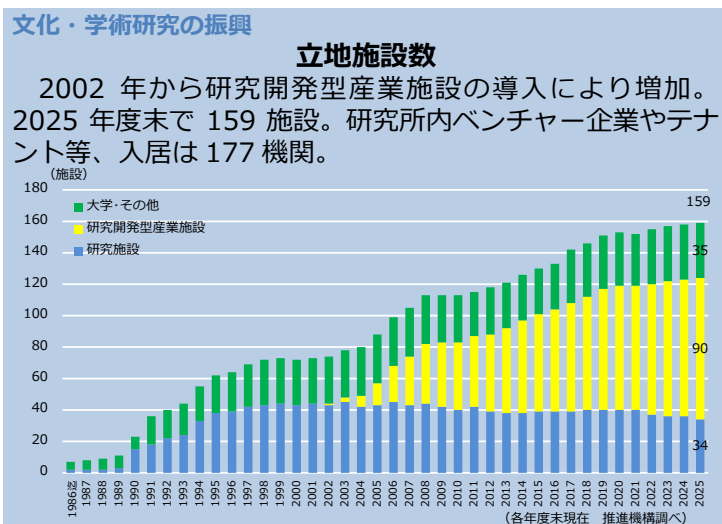
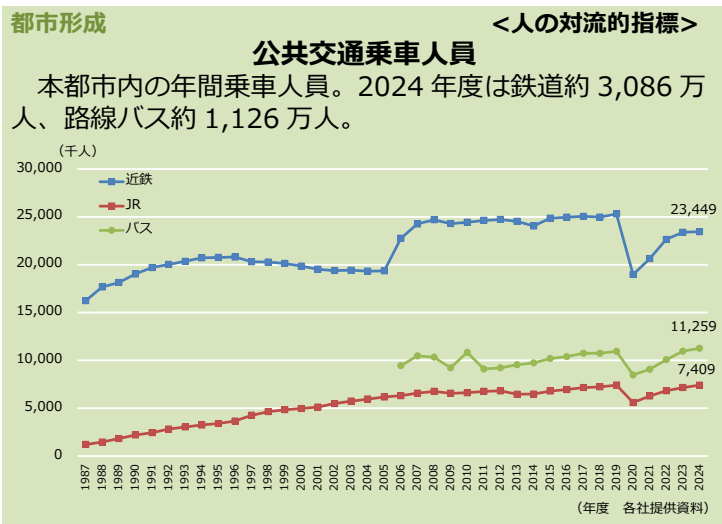
南田辺・粕田地区の整備状況



2025.11 KRI 撮影

京奈和自動車道の精華下粕田IC交差点と山手幹線に接続する粕田東地区内幹線道路をはじめ、南田辺・粕田地区では施設立地に向け整備が進められている。

(Google マップより)

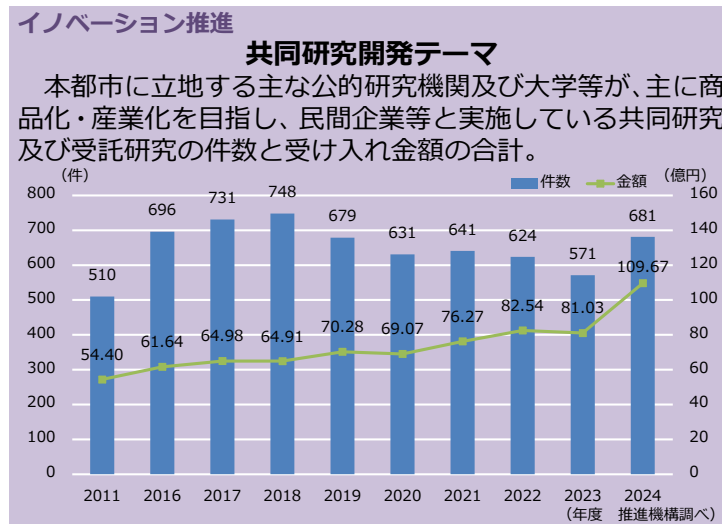
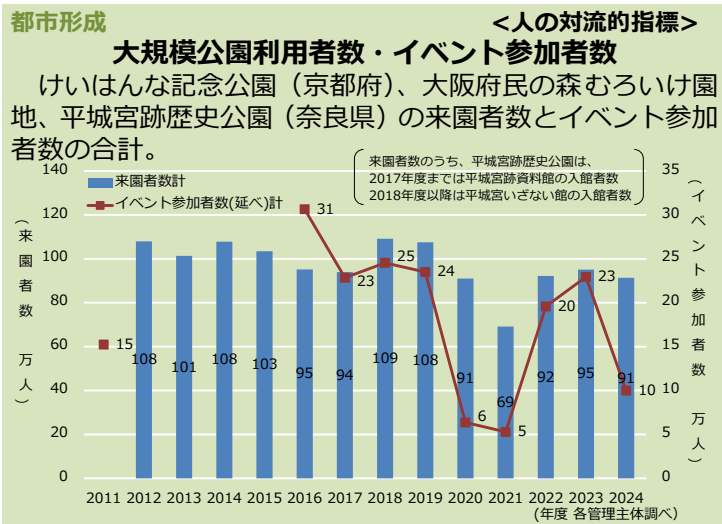


自動運転バスの実証運行

2026年2月に3週間に亘り、京田辺市、木津川市で自動運転バスの実証運行が行われ、約1,400名が試乗体験した。完全自動のレベル4社会実装を目指し、実際の路線でバス停にも停車する本番さながらの環境で、自動運転レベル2（運転手同乗）の実証実験を行い、木津川市で自動運転率が99%を超えるなど、近い未来のレベル4社会実装への期待が大きく高まった。

合わせて、2025年8月には、精華町でレベル2の自動運転バスの運行や複数の自動運転車両を遠隔監視する技術実証を行うなど、本都市を舞台に、自動運転バスの社会実装に向けた国内トップレベルの取組が進められている。

(KRI 撮影)



イノベーション推進

Club けいはんな・K-PeP 活動状況

Club けいはんなは、ものづくりのための研究開発を支援するため、生活者としての知恵と知識を活かす市民参画による組織。（2016年設立）

K-PePは、自動運転等の新技術や新たな交通システムの確立に向けた日本で初めての企業乗合型、住民参加型の公道走行実証実験プラットフォーム。（2018年運用開始）

会員数 4,162人 (2026年3月末現在)

活動実績 (累計)

- ワークショップ 13件
- 実証実験 15件
- Web調査 33件

参加企業数 (2026年3月末現在) 22社

実証実験件数 (累計) 42件

NAIST STELLA プログラム

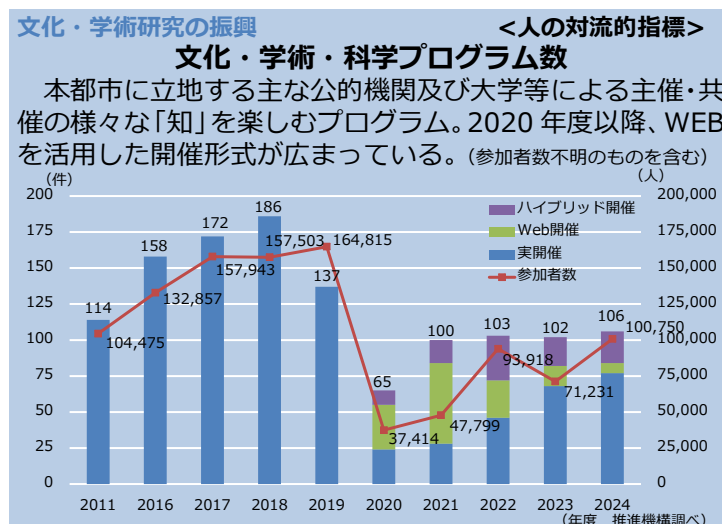
奈良先端科学技術大学院大学が実施する『NAIST STELLA プログラム:「共創」が育む主体性の未来』は、高校生・高専本科生を対象に、多彩な講義・演習・サイトビジット等を通じて、科学技術と探究・研究を学ぶ教育プログラム。

JST 次世代人材育成事業『次世代科学技術チャレンジプログラム』の一つで、令和5年度より毎年40名を超える受講生を迎えている。

教員や大学院生メンター等が「探究 ONE TEAM」を組織し、高校生・高専本科生らしい興味・関心を、確かな「探究・研究テーマ」へといざなう。

国際会議で成果を発表する受講生も。

(NAIST 提供)



イノベーション推進

社会実装を目指した実証事業件数

2016年度から9年間累計 808件 実施

本都市に立地する主な公的研究機関や大学等において、新たに開発した技術や製品等の社会実装を目指した実証事業の状況。（自社敷地内で一般住民が参加しない事業は除外）

<一例>

2024年9月実施 ロボットアバターやCGアバターが街中で活躍します！

アバター共生社会 体験型実証実験 『アバターランド』

～グラングリーン大阪 JAM BASE と 東京 WATERRAS で未来社会を体験～ (ATR 提供)

イノベーション推進

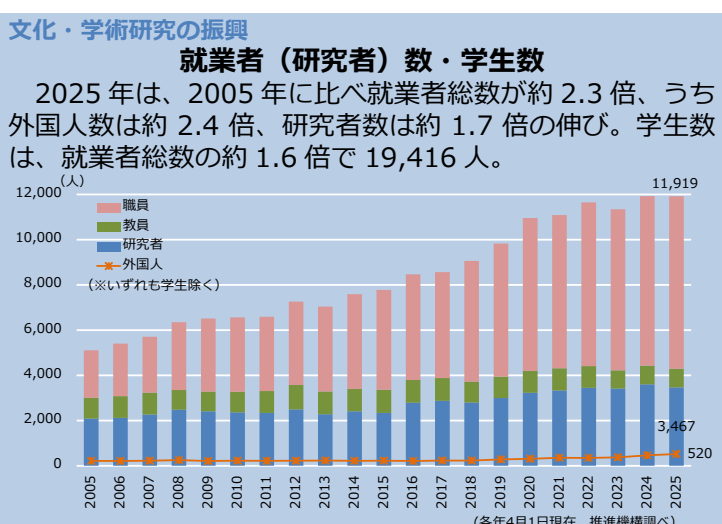
企業支援活動件数及び特区制度計画認定事業数

本都市に立地する各支援機関による技術開発、資金獲得、販路開拓等の企業支援活動件数。国際戦略総合特区での計画認定事業数は2025年度末現在で6件。

年度	企業支援活動件数 (件)	計画認定事業数 (件)
2015	459	0
2017	858	0
2019	1,246	0
2021	1,488	0
2023	1,187	0
2025	907	6

本都市における国際戦略総合特区での計画認定事業数の内訳

- ① 規制の特別措置 1件
- ② 税制支援 4件
- ③ 財政支援 1件
- 計 6件



けいはんな万博 2025

大阪・関西万博に共感し、本都市の魅力や強みを発信する好機と捉えて開催した「けいはんな万博 2025」では、「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、73機関の参画を得て74イベントを実施し、延べ20万人を超える参加者を得た。

単なる展示・イベントに留まらず、未来社会に貢献し得る研究開発のシーズや強みが数多く存在することを確認、また異なる立場を超えて熱い思いを持つ人々が協働し、共創のネットワークが構築された。

(けいはんな万博 2025 運営協議会 提供)

2025年大阪・関西万博「RITE 未来の森」

地球環境産業技術研究機構（RITE）は、大気中の二酸化炭素を直接回収するDAC技術（Direct Air Capture）や、CO2を地中に貯留するCCS技術（Carbon dioxide Capture and Storage）を紹介する「RITE 未来の森」を2025年大阪・関西万博で出展した。DACは自然の森と同じように大気中のCO2を回収することから「未来の森」と名付けられた。

184日間の会期中、約1,000回の見学ツアーが実施され、最新の立体映像技術を用いた解説映像の視聴や、DAC実証プラントの見学など、合計18,610名が地球温暖化対策の最先端技術を体感した。

施設の一部はRITE本部（木津川市）への移設が予定されている。

(RITE 提供)

大阪・関西万博 レガシー継承

大阪・関西万博閉幕後、シグネチャーパビリオン「いのちの未来」のレガシーを受け継ぐ「いのちの未来研究所」が、2025年10月14日、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）内に開設された。

また、京都府が同パビリオンのアンドロイドの一部を無償で譲り受け、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）に移設。2026年2月には、「万博のレガシー継承」をテーマにした記念シンポジウムと一般公開が行われ、2日間で約1,400名がKICKに来場。シンポジウムの倍率が約8倍になるなど、関心の高さが伺えた。

今後、展示・教育プログラムや実証実験などを通じ、けいはんな学研都市などでの社会実装、人とアンドロイドの共生社会の実現を目指している。

(京都府 提供)